

(2) 本時の展開

	ねらい	教師の働きかけ	学 習 活 動	指導・援助・評価
つ か む / 考 え を も つ / 見 つ け る / 確 か に す る	本時の問題場面を把握することができる。	1 確かな課題をつかむ活動を位置づける。 「今までどうやって答えを出してきましたか。」	< もんだい(1) > みんなで、ジェットコースターにのりました。 はるかさんは、まえから6ばんめです。 はるかさんのうしろには、8にんいます。 みんなで14にんのっていることを、しきにあらわしてみよう。 ・いままで、しきをつくるときには、「けいさんめいじんへのみち」でかんがえると、ずをつかっているから、ずをつかってみればいとおもう。 ブロック や ず と しき にあらわして かんがえてみよう。	 ・絵から問題を把握し、ブロックや 図につながるようにする。
	確かな課題と、問題(2)での見通しの手だてをもつことができる。	2 問題(2)で見通しをもち筋道を立てて考えていく、たくましい歩みを支える考えや方法を知る活動を位置づける。 「お話ししながら、ブロックを操作したり、図をかいてみましょう。」 「どんな式がつけられますか。」 「どんなことがわかりましたか。」	(ブロック) 14にん はるか 6にん 8にん (図) 14にん はるか 6にん 8にん ずをつかえば、なにざんかがわかり、しき と こたえがわかりやすい。 < もんだい(2) > こどもが15にんならんでいます。 ひとみさんは、まえから9ばんめです。 ひとみさんの うしろには、なんにんいるでしょう。 < A コース > < B コース >	・ 図がかけない子には、ブロックと結びつけてかけるようにする。 ・ 図がかけた子には、問題文からわかることを、書き入れるように助言する。 ・ 問題文と 図を結びつけながら、1つずつ数をかくすことによって、図から演算決定や式、答えが見通せるよさを味わわせる。 ・ よさをまとめ、問題(2)で使っていこうとする数学的な態度が身につくようにする。 
問題(1)の学習と結びつけて、結果と方法の見通しをもつことができる。 既習内容を使って、順序よく考えていくことができる。	3 結果と方法の見通しをもつ場を位置づける。 「どんなことがわかりますか。」	自分の考えをもつことができ、問題(1)で分かったことを確認し、比べながら考えていけるようにする。 ・問題文から 図に表し、何算か答えはいくつが見通しをもつ。 15にん 9にん こたえ → こたえは6だと思う。 全体の数が分かっているから、ひき算になりそうだ。 ・式にし、計算する。 $15 - 9 = 6$ ・自分が考えたことをお話ししてみる。 わたしは、答えは6で、方法は、ひき算の計算で求められると見通しをもって考えました。式が $15 - 9$ になったので、ひき算(2)で勉強した「ひきたすほう」を使って計算したら、やっぱり答えは6になりました。 ・小黒板を使って仲間と交流する。	問題(1)で分かったことを確認し、比べながら考えていけるようにする。 ・式にする。 図から、ひき算になることが分かるときは、 $15 - 9$ ・計算する。 ひき算(2)の「ひきたすほう」を使って計算すると、 $15 - 9 = 6$ $10 - 9 = 1$ $1 + 5 = 6$ こたえ 6人 ・こたえを 図で確かめる。	・問題(1)をもとに、見通しをもとうとしているが、なかなか 図がかけない子には、絵の上にブロックを置くことから始めるように助言する。 ・ 図がかけて、見通しのもち方で困っている子には、結果と方法の見通しがもてるように、問題(1)を振り返るように助言する。 ・ブロック操作や 図をもとにした手の動きを大切にして考えたり、説明したりしている子を価値づけ、広めていく。 ・答えはでたが、上手く説明できない子には、「はじめに、つぎに、そして、だから」という言葉を使いながら話すように助言する。
本時の学習を振り返るとともに見つけた数学的な考え方のよさや歩みのよさを味わうことができる。	5 本時の学習を振り返る活動を位置づける。 「今日の学習を振り返りましょう。」	< 振り返り > 【基礎・基本が身についた姿】 ・問題(1)で獲得した図を用いて見通しをもった姿 ・問題(1)で獲得した図を用いて問題(2)を筋道立てて考える姿 ・これまでに獲得してきた計算方法を用いて計算できた姿	ずをつかうと、こたえやなにざんかがみとおしがおもてたり、しきをつくってけいさんできたりすることが、よりかんたんになる。	順序数の加減計算の場合も集合数に置き換えて考えている < 数学的な考え方 > ・学習プリントで本時の学習を振り返り、追究の態度や考え方について認め励ましていく。